

令和6年度
砥部町水道事業会計

決 算 審 査 意 見 書

砥部町監査委員

目 次

1	審査について	
(1)	審査対象	1
(2)	審査期日	1
(3)	審査の方法	1
2	審査の結果	1
3	決算の概要	
(1)	水道事業の業務状況	2
(2)	収支の状況	
①	収益的収入及び支出	2
②	資本的収入及び支出	3
(3)	経営成績	
①	経常収支について	4
②	給水収益の状況	4
③	費用使途別構成比	5
(4)	企業債の状況	5
(5)	資産の状況	6
4	結び	6

凡 例

本書における数値等の取り扱いについては、以下のとおりである。

- 1 文中及び各表中の金額は、原則として千円単位で表示し、単位未満を四捨五入して表示した。したがって、内訳の計が「合計」又は「小計」の金額と一致しない場合がある。
- 2 比率(%)は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して第1位まで表示した。したがって、内訳の構成比の計が「合計」の数値と一致しない場合がある。
- 3 前年度との比較は、原則として項目ごとに千円単位に四捨五入したうえで、差引数値又は増減比を算出している。
- 4 各表中の符号の用法は、次のとおりである。
 - 「0.0」・・・ 該当数値はあるが、表示単位未満のもの
 - 「-」・・・ 該当数値がない場合又は比率で計算不能の場合
 - 「△」・・・ 負数を示し、増減を示すときは減を表す

1 審査について

(1) 審査対象

令和6年度砥部町水道事業会計決算

(2) 審査期日

令和7年7月30日

(3) 審査の方法

町長から審査に付された決算報告書、財務諸表及び決算附属書類が地方公営企業法その他関係法令の規定に基づいて作成され、また、それらが事業の経営成績及び財政状態を正確かつ適正に表示しているか否かについて審査した。

審査にあたっては、事業報告書等、事業実態の詳細について、関係職員の説明を聴取し、関係証憑の確認を実施するとともに、例月現金出納検査等の結果も参考とした。

2 審査の結果

決算報告書、財務諸表、事業報告書及び附属明細書は、いずれも関係法令に準拠して作成されており、その計数は証書類と符合し正確であり、当事業の当年度の経営成績及び財政状態を適正に表示されているものと認められた。

予算の執行は、適正であると認められた。

3 決算の概要

(1) 水道事業の業務状況

水道の状況

年度	給水戸数 (戸)	給水人口 (人)	普及率 (%)	有収率 (%)	1日最大 供給量 (m ³)	1日平均 供給量 (m ³)	供給単価 (円/m ³)	給水原価 (円/m ³)	管の 総延長 (m)
6	9,054	19,049	94.8	84.4	8,051	7,190	138	127	165,737
5	9,022	19,225	94.8	83.8	7,774	7,117	135	123	165,617
4	8,990	19,387	94.7	81.7	8,208	7,195	104	128	165,347
3	8,842	19,343	94.6	84.5	8,474	7,272	121	119	165,221

(2) 収支の状況

① 収益的収入及び支出

単位：千円

		6年度		5年度	4年度	3年度
		予算現額	決算額	決算額	決算額	決算額
収入	営業収益	372,278	363,352	349,767	312,835	332,658
	営業外収益	41,641	32,834	38,758	63,618	38,007
	特別利益	20	0	—	—	—
	計	413,939	396,185	388,525	376,453	370,665
支出	営業費用	345,681	323,960	316,852	307,215	315,369
	営業外費用	26,753	25,181	35,430	19,025	18,845
	特別損失	50	27	35	—	—
	予備費	500	0	0	—	—
	計	372,984	349,168	352,317	326,239	334,214
収支差引額		40,955	47,017	36,208	50,214	36,451

収入は、予算現額4億1,393万9千円に対し、決算額3億9,618万5千円で、収入率は95.7%となっている。

支出は、予算現額3億7,298万4千円に対し、決算額は3億4,916万8千円で、執行率は93.6%となっている。

② 資本的収入及び支出

単位：千円

		6年度		5年度	4年度	3年度
		予算現額	決算額	決算額	決算額	決算額
収 入	企業債	412,000	134,000	45,000	431,500	195,500
	補助金	0	0	8,600	51,794	—
	負担金	3,320	3,036	2,193	1,341	2,500
	工事負担金	10,000	8,889	35,600	1,276	80,571
	出資金	40,000	0	0	63,000	—
	計	465,320	145,925	91,393	548,911	278,571
支 出	建設改良費	505,265	175,251	120,265	598,502	358,740
	企業債償還金	158,811	156,671	152,169	141,022	126,638
	計	664,076	331,921	272,434	739,524	485,378
収支差引額		△ 198,756	△ 185,996	△ 181,041	△ 190,613	△ 206,807

収入は、予算現額4億6,532万円に対し、決算額1億4,592万5千円で、収入率は31.4%となっている。

支出は、予算現額6億6,407万6千円に対し、決算額3億3,192万1千円で、執行率は50.0%となっている。

資本的収入額が資本的支出額に対し不足する額185,996,479円については、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額14,350,060円及び過年度分損益勘定留保資金171,646,419円で補てんしている。

(3) 経営成績

① 経常収支について

単位：千円

		6年度	5年度	4年度	3年度
経常 収益	営業収益	330,466	318,105	289,192	302,839
	営業外収益	32,603	38,205	32,454	31,602
	計(A)	363,069	356,310	321,646	334,441
経常 費用	営業費用	311,450	305,025	295,827	302,682
	営業外費用	19,131	20,654	23,788	19,089
	計(B)	330,581	325,679	319,615	321,771
経常損益(A)－(B)		32,488	30,631	2,031	12,670
特別 損益	特別利益	—	—	—	—
	特別損失	24	32	—	—
当年度純利益		32,465	30,599	2,031	12,670

経常収支は、経常収益3億6,306万9千円に対し、経常費用3億3,058万1千円で、特別損失を差し引いた当年度純利益は3,246万5千円となっている。

② 給水収益の状況

単位：千円・m³・%

水道使用料				使用水量			
6年度	5年度	4年度	増減率 (6年度： 5年度)	6年度	5年度	4年度	増減率 (6年度： 5年度)
304,975	295,410	222,273	3.2	2,215,670	2,184,142	2,147,262	1.4

前年度対比では、水道使用料・使用水量ともに増加している。

③ 費用使途別構成比

単位：千円・%

	6年度		5年度		4年度		増減率 (6年度： 5年度)
	金額	構成比	金額	構成比	金額	構成比	
人件費	20,170	6.1	19,278	5.9	23,724	7.4	4.6
動力費	46,896	14.2	50,370	15.5	48,853	15.3	△ 6.9
物件費その他	88,950	26.9	77,042	23.7	78,854	24.7	15.5
減価償却費等	155,508	47.0	158,476	48.7	149,292	46.7	△ 1.9
支払利息	19,057	5.8	20,513	6.3	18,892	5.9	△ 7.1
特別損失	24	0.0	32	0.0	—	—	—
計	330,605	100	325,711	100	319,615	100	1.5

使途別では、減価償却費等、物件費その他、動力費が主に占めている。

前年度対比では、物件費その他・人件費が増加し、動力費・減価償却費等・支払利息が減少している。

(4) 企業債の状況

単位：千円

資金区分	5年度末残高	年度中		6年度末残高
		借入額	償還額	
財政融資資金	512,496	0	58,529	453,967
地方公共団体金融機構資金	1,279,115	124,000	98,141	1,304,974
えひめ中央農協	0	10,000	0	10,000
計	1,791,611	134,000	156,671	1,768,940

第7配水池造成工事（1期）等に伴い、1億3,400万円を借り入れ、未償還残高は2,267万1千円減少し、17億6,894万円となっている。

(5) 資産の状況

単位：千円

		6年度	5年度	増減
固定資産	有形固定資産	4,281,580	4,265,005	16,575
	無形固定資産	361	361	0
	投資	17	17	0
	計	4,281,958	4,265,382	16,575
流動資産	現金・預金	113,726	232,231	△118,505
	未収金	86,606	75,980	10,626
	貯蔵品	522	339	183
	前払金	79,268	31,000	48,268
	計	280,122	339,551	△59,428
合計		4,562,080	4,604,933	△42,853

固定資産は1,657万5千円増加し、除却及び減価償却後の未償却残高は42億8,195万8千円となっている。

流動資産は5,942万9千円減少し、2億8,012万2千円となっている。

4 結び

良質な水を安い価格で安定的に供給するための基盤整備と給配水に留意するとともに、経費の節減・堅実運営に努め、概ね良好な成果を得て令和7年度に引き継ぐことができたものと見受けられる。

水道事業については、昨年発生した能登半島地震の被害を踏まえ、現在進められている配水池の耐震化に加え、水道管の耐震化についても取組が加速化されることを期待する。

少人数の山間地など採算ベースに乗りにくい地域においても、飲料水の安全面から行政が運営する必要があり、安定供給に努められている。引き続き、給水原価の低減に努めるとともに、有収率の向上を図り、より一層合理的・効率的な経営に努められたい。

また、節水意識の向上や給水人口減少で使用水量の大幅な伸びが期待できない中、今後、経営環境はますます厳しくなることが予想されるため、5年度からの料金改定による影響も十分注視しながら、引き続き安定した水源確保と安心安全な飲料水の供給に努められたい。